

今日のトピック

米ドル円レートは120円台、株高傾向も進展

ポイント1 約7年4カ月ぶりに120円台

日経平均株価は6日続伸

- 米ドル円レートは、4日のNY市場で一時1米ドル120.25円と2007年7月以来、約7年4カ月ぶりの水準となりました。米国景気への信頼感が高まり、ドル買い・円売りの流れが強まりました。その後、一時120円を割る場面もありましたが、日本時間の5日15時現在は120.02円前後と120円台を維持しました。
- 5日の日経平均株価は前日比+33.24円の17,920.45円と6日続伸となりました。円安進行や好調な企業業績が好感されたと見られます。この6日間で日経平均株価は671.95円上昇し、2007年7月につけた18,000円にあと一步と迫りました。



ポイント2 NYダウは最高値水準

米国景気への信頼感高まる

- 4日のNYダウは、小幅に下落したものの過去最高値近辺での推移となっています。その背景のひとつには米国景気の底堅さがあります。3日発表の地区連銀経済報告(ベージュブック)では、雇用の改善が幅広い地域で見られ、消費もほとんどの地域で拡大したことが示され、米国景気への信頼感が高まりました。



今後の展開 円安・株高傾向が当面続く見込み

- これまでの円安・米ドル高傾向は、日米の景況感や金融政策の方向性の違いに加え、米国の「双子の赤字」(財政収支と貿易収支の赤字)の縮小傾向も大きく影響しています。「双子の赤字」は、歳出削減と税収増、シェールガス/オイルの増産による原油輸入の減少などから近年縮小傾向です。これらは足元でも米ドル高要因になっていると思われ、この傾向は続くと考えられます。
- 円安の進展は、日本企業にとってコスト増などのマイナス面もあります。ただし輸出企業の業績改善などにより、全体としてはプラスとみられ、2014年度の経常利益は2007年度の過去最高を上回る見込みです。
- また、消費税増税の延期や賃上げの動きは、消費者マインドにプラスと見られます。企業業績の拡大や消費回復などが、今後の株価の支援材料になると考えられます。

ここも
チェック!

2014年12月02日 日本国債の「格下げ」(日本)
2014年12月02日 好調さを示す「法人企業統計」(日本)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。